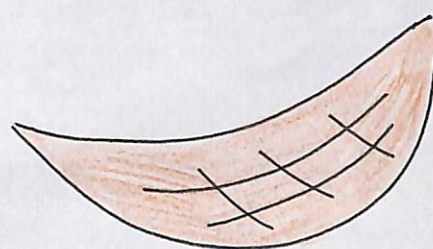
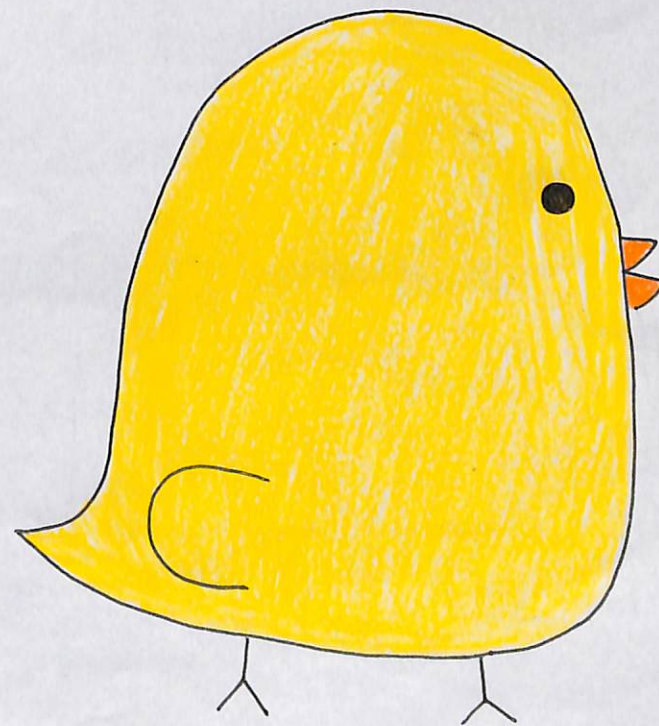


ひよこのピーちゃんはおひるねを
していました。

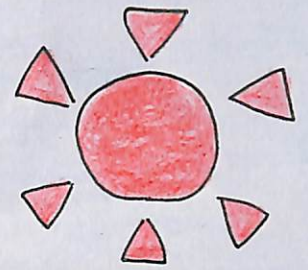
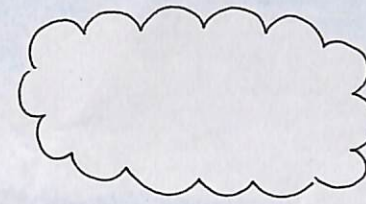
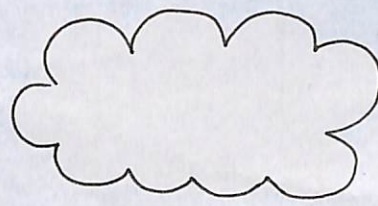
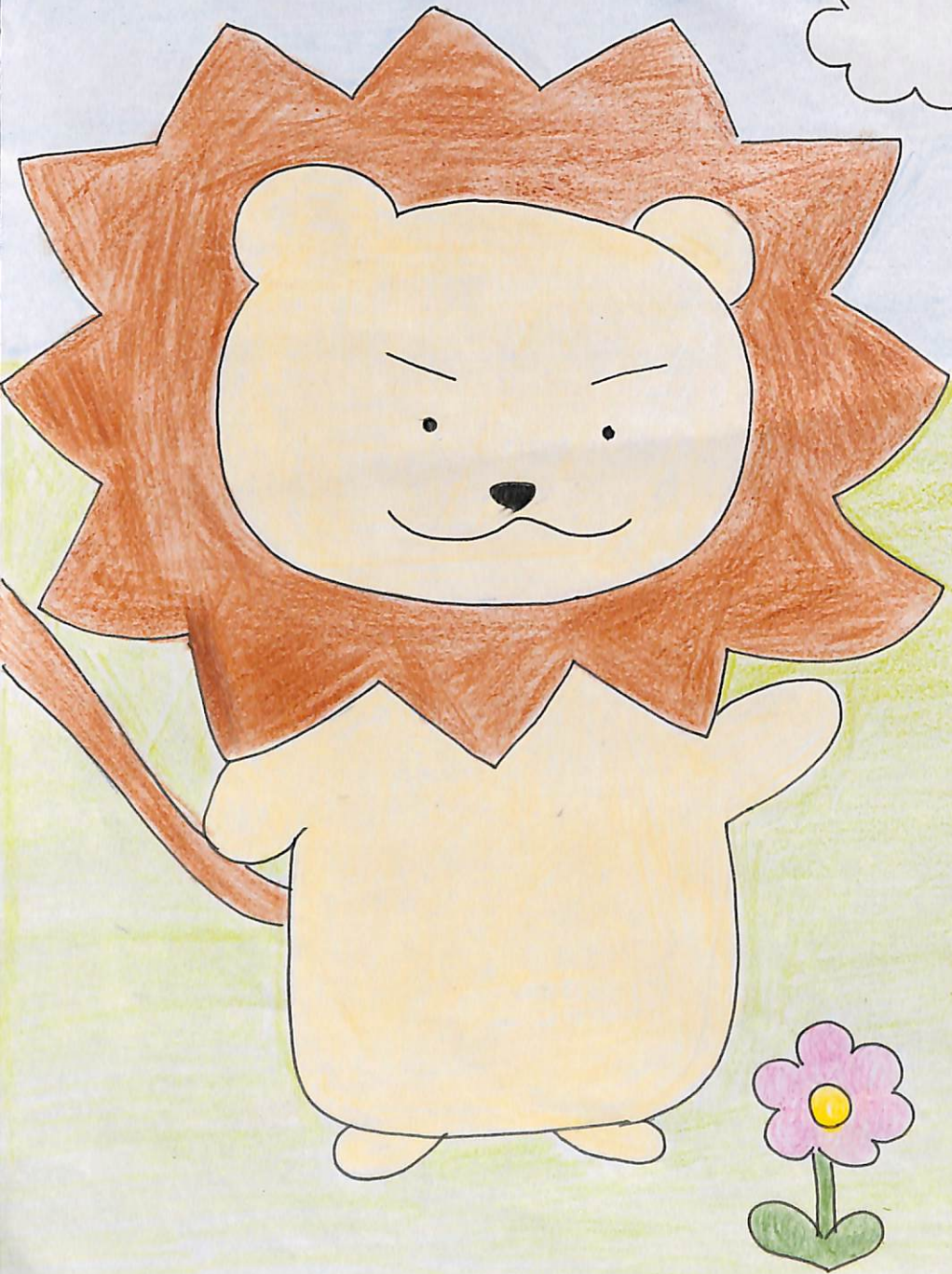


「あれ？ママがいない。」
ピーちゃんがおきるとママが
いません。どうやらピーちゃんの
ママはおでかけをしているようです。
「よし、ママをさがしにいこう。」
ピーちゃんはママをさがしに
いくことにしました。

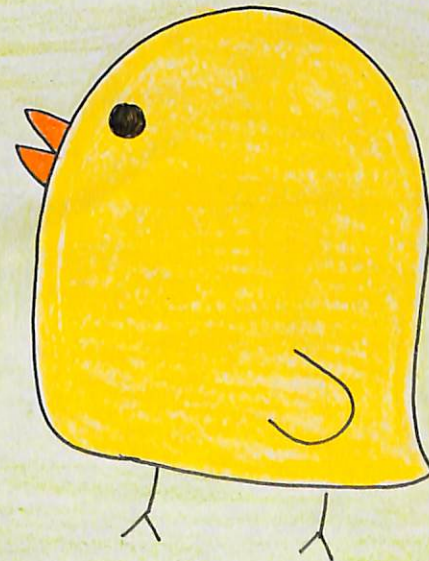


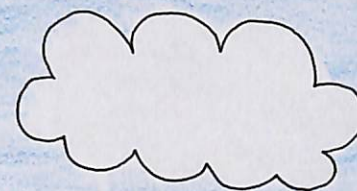
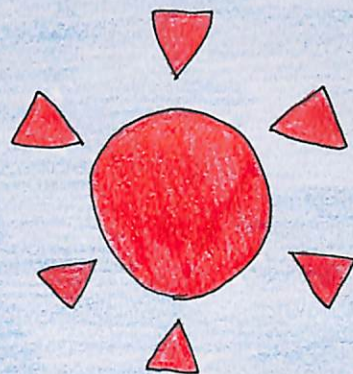


ヒーちゃんがあるいていと。
あるいっぴきのどうぶつがいました。
ヒーちゃんはママだとおもい、おおきなこえて
「ママ～!!」
とよびました。すると...

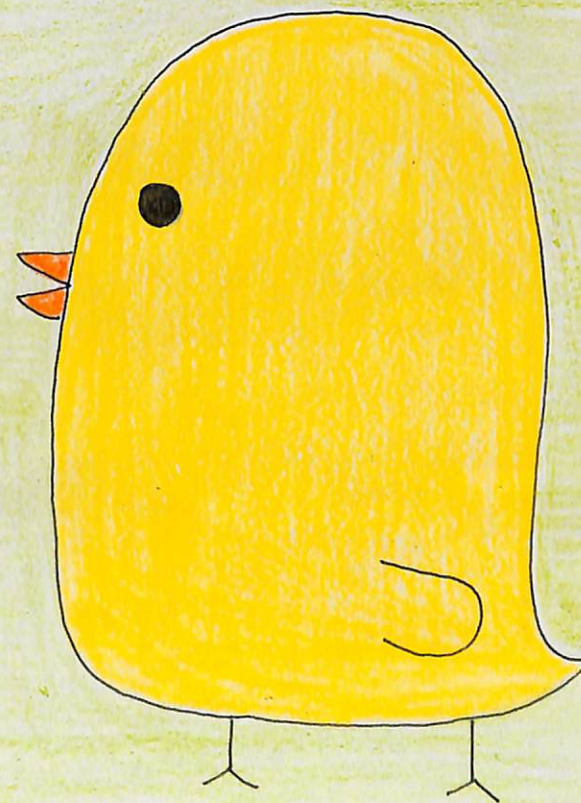


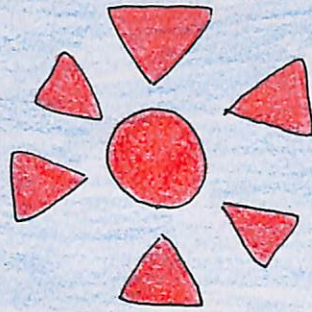
「ぼくはライオンのライくんだよ。
ピーちゃん、ぼくはきみのママじゃないんだ。
きみのママはあっちのほうでみたよ。」
とライくんが言いました。
「ライくんありがとう。」
ピーちゃんはライくんにおれいをいうと、
またあるきだしました。



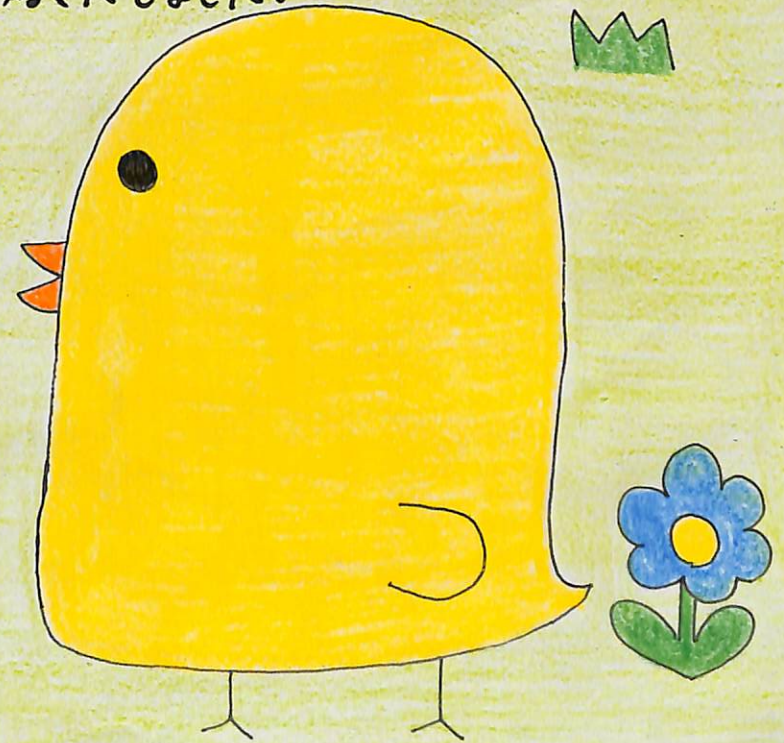
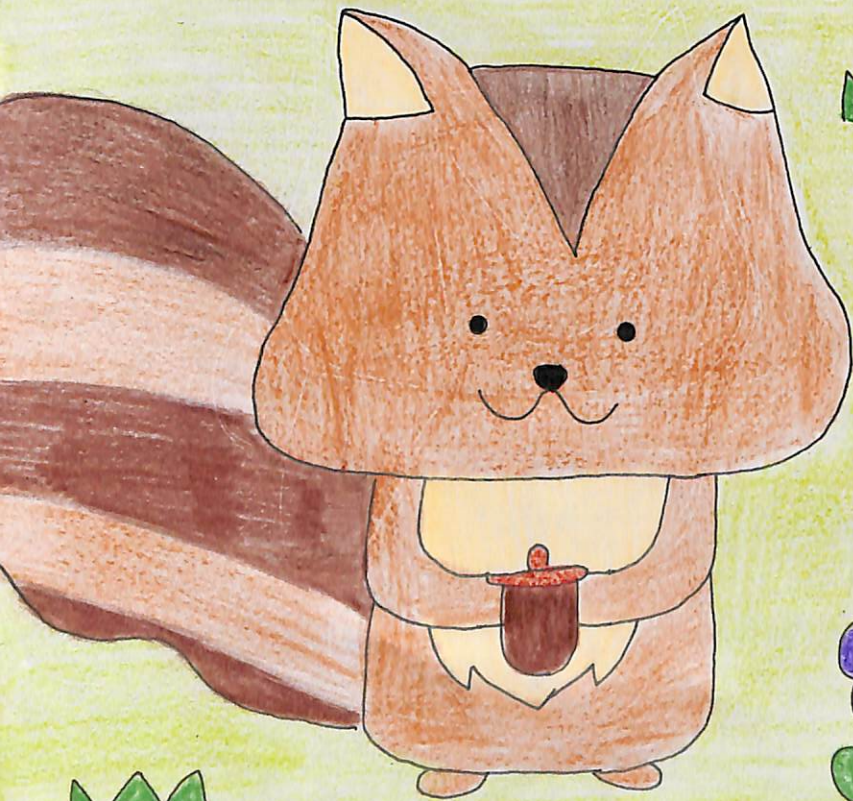


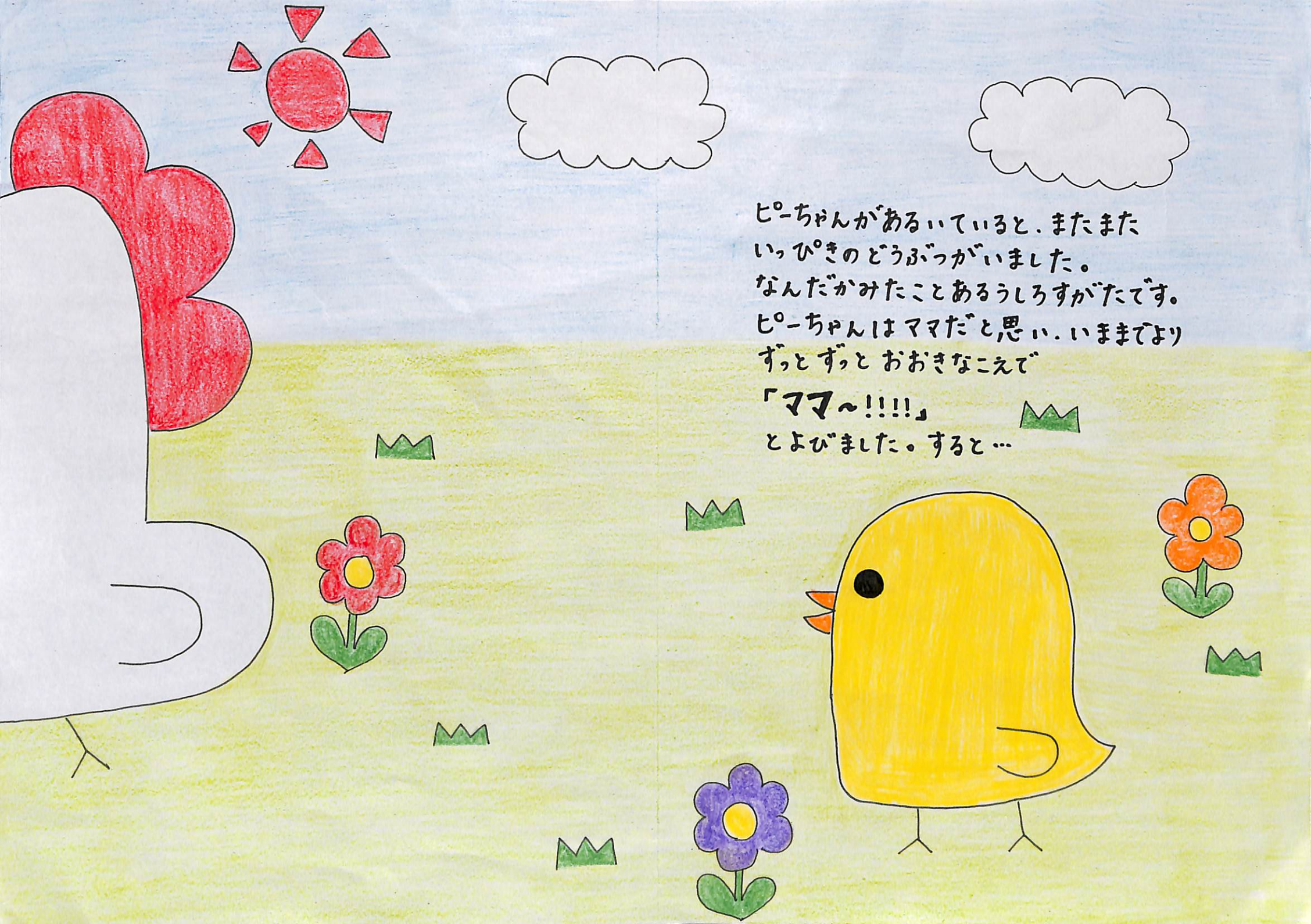
ピーちゃんがまたあるいと、また
あるいっぴきのどうぶつがいました。
ピーちゃんはママだとおもいおおきなこえて
「ママ～!!」
とよびました。すると…





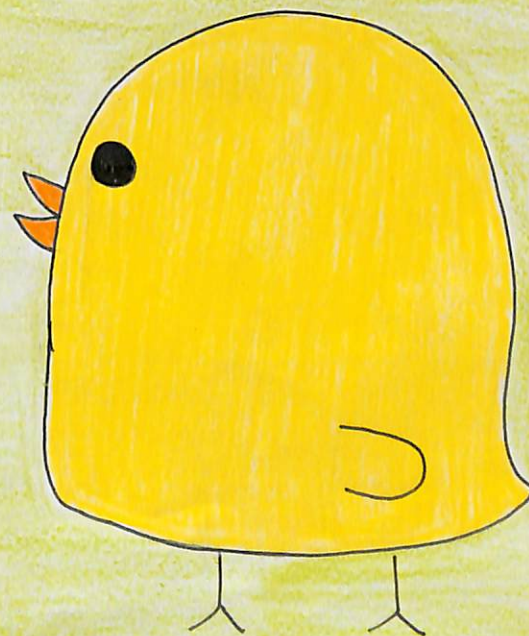
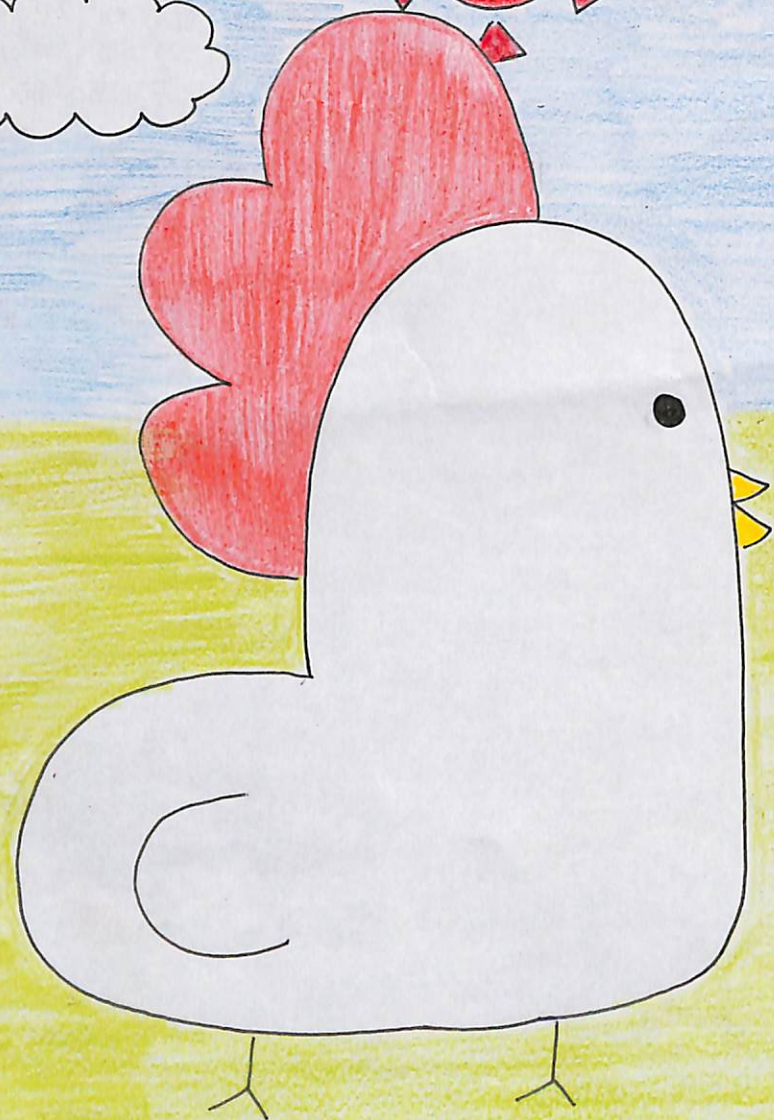
「わたしはリスのシリちゃんよ。
ピーちゃん.わたしはあなたのママじゃないの。
あなたのママはあちのほうでみたよ。」
とシリちゃんがいいました。
「シリちゃん ありがとう。」
ピーちゃんはシリちゃんにおれいをいうと
またあるきだしました。





ヒーちゃんがあるいていと、またまた
いっひきのどうぶつがいました。
なんだかみたことあるうしろすがたです。
ヒーちゃんはママだと思い、いままでより
ずっとずっとおおきなこえて
「ママ~!!!!」
とよびました。すると...

「あら、ヒョーちゃんどうしたの？」
といいました。やっはりママでした。
「ママがいなくてさみしかったからさがしたんだよ。」
とヒョーちゃんがいいました。
「そうだったの。ごめんね ヒョーちゃん。
さあ、おうちにかえりましょう。」





こうしてママとであえたヒョーちゃんは
ママによりそってなかよくおうちにがえりました。
よかったね、ヒョーちゃん。